

1 高崎市民福祉意識アンケート調査

(1) 調査の目的

市民の福祉に対する意識調査や地域福祉推進の課題の抽出のため、市民の率直なお考えや、ご意見、ご要望をお聞きしました。

(2) 調査の方法

調査の方法は以下のとおりです。

- | | |
|-------|--|
| ①調査地域 | 高崎市全域 |
| ②調査対象 | 満18歳以上90歳以下の市民 |
| ③対象者数 | 800人 |
| ④抽出方法 | 平成30年3月1日現在、住民登録されている市民の中から無作為抽出 |
| ⑤調査方法 | 調査用紙を対象者に郵送、郵便での返送による回収 |
| ⑥調査日程 | ・調査用紙の発送 平成30年3月28日
・調査用紙の回収 平成30年4月15日まで |

(3) 回収結果

調査用紙の回収結果は以下のとおりです。

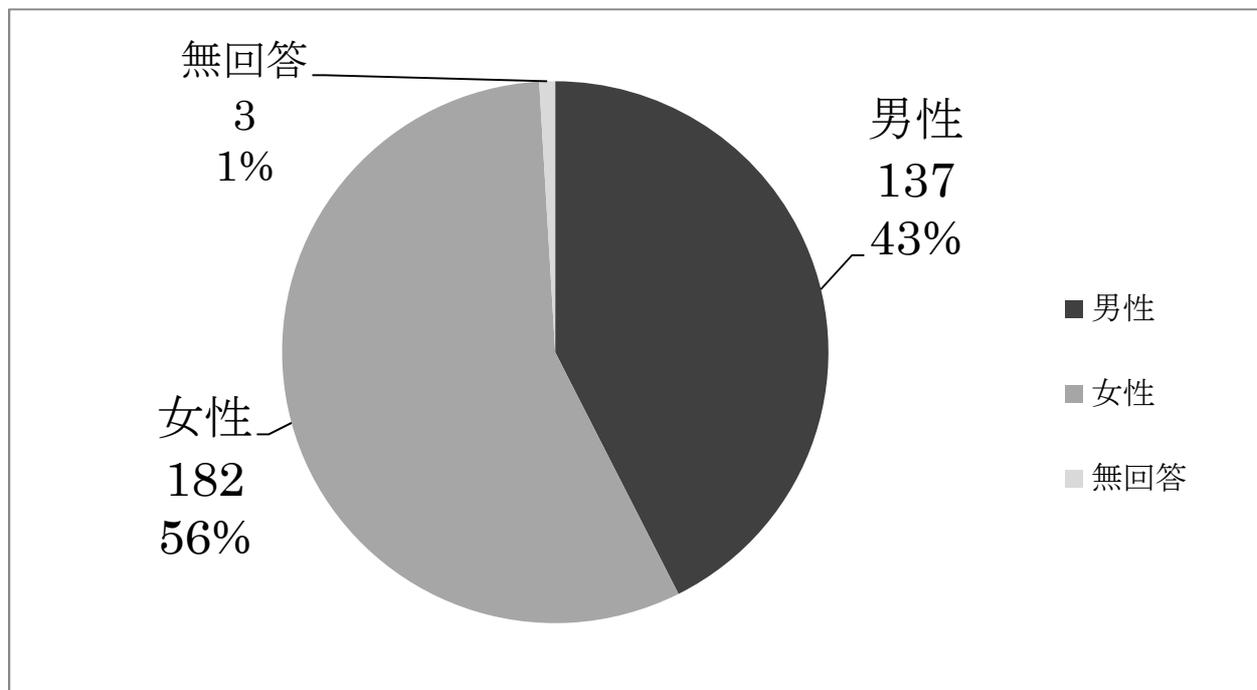
- | | |
|---------|-------|
| ①調査対象者数 | 800人 |
| ②回収数 | 322人 |
| ③回収率 | 40.3% |

(4) 集計結果の表示等

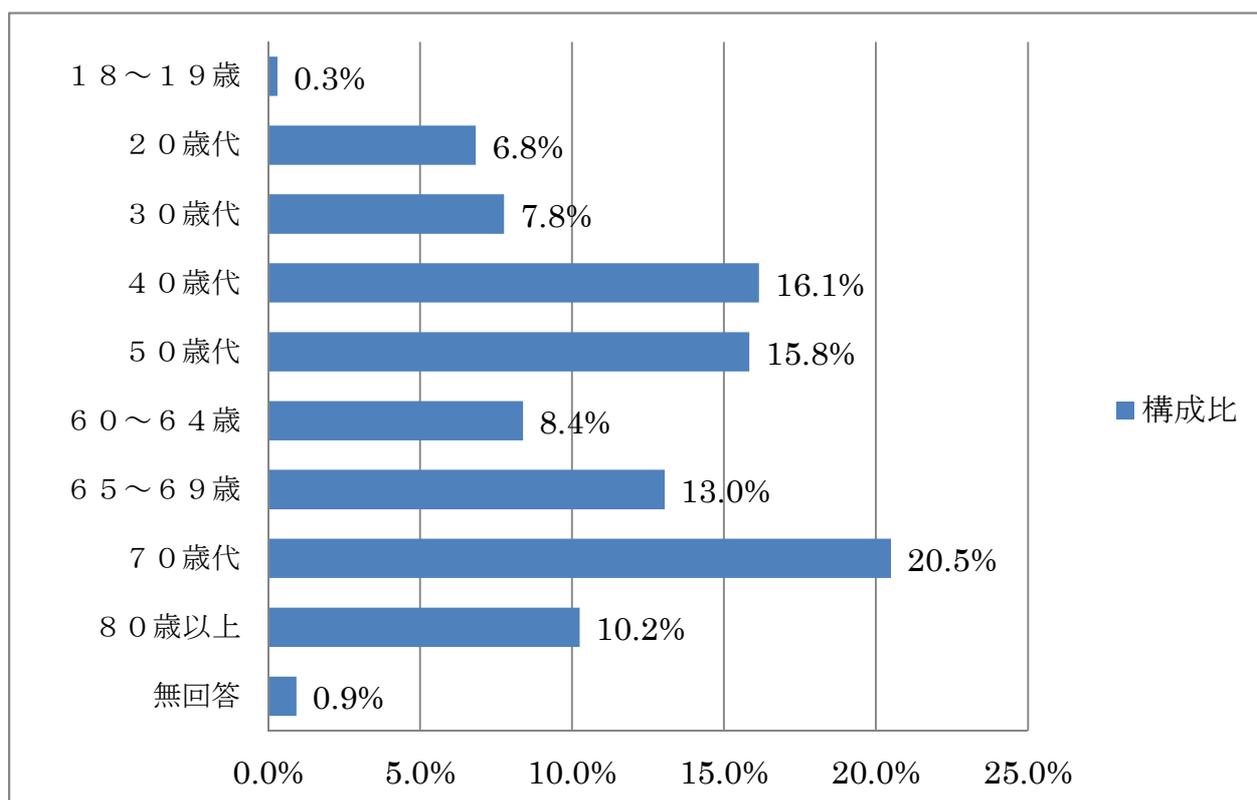
集計結果は、小数点第2位を四捨五入し、構成比率（パーセンテージ）で小数点第1位まで表示してあります。そのため、表示された構成比率の合計が100.0%にならない場合があります。

《 回答の概要 》

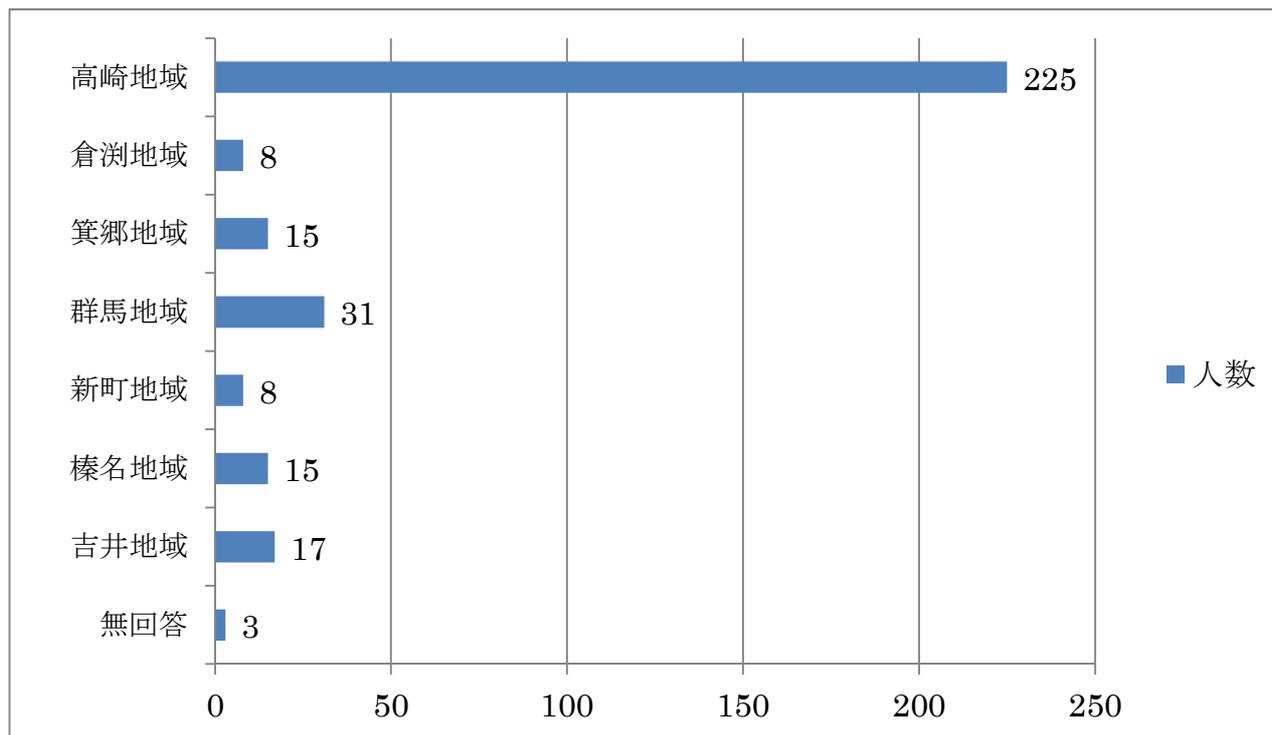
問1 あなたの性別をお伺いします。(どちらかに○をつけてください。)



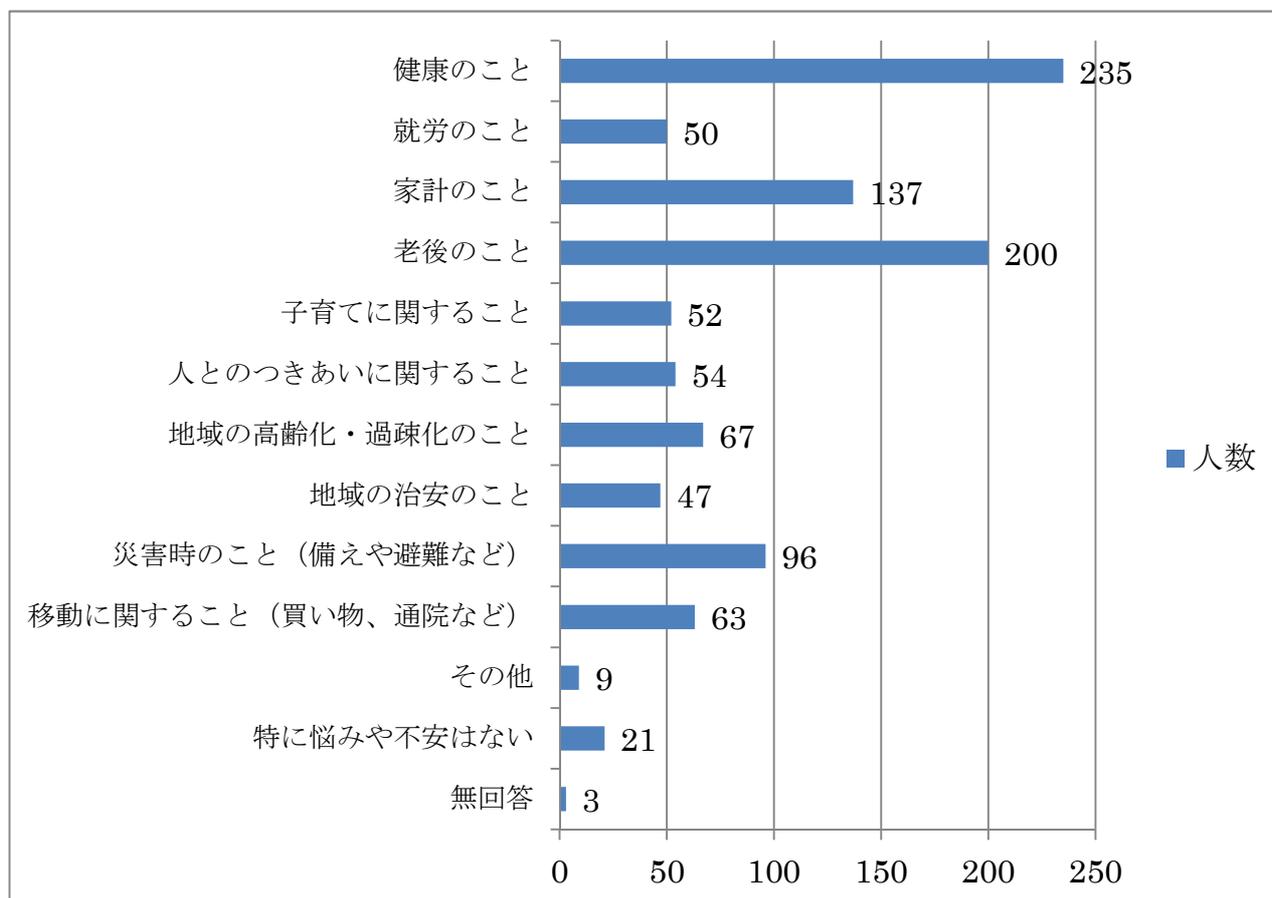
問2 あなたの年齢をお伺いします。(あてはまるものに○をつけてください。)



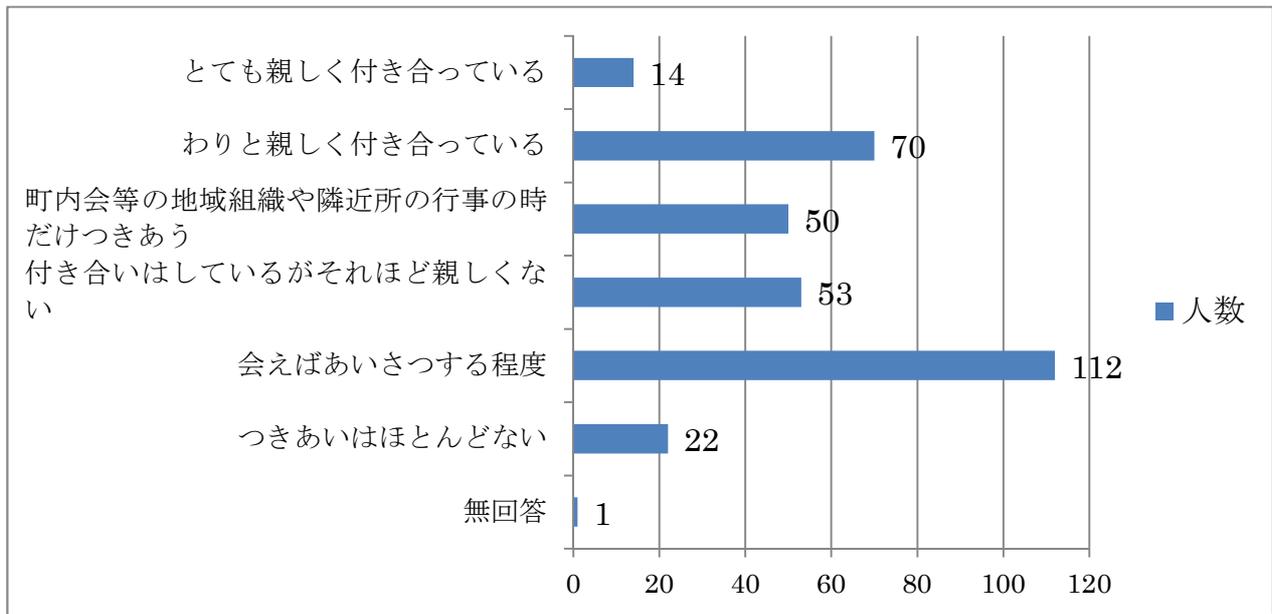
問3 あなたの住んでいる地域をお伺いします。(あてはまるものに○をつけてください。)



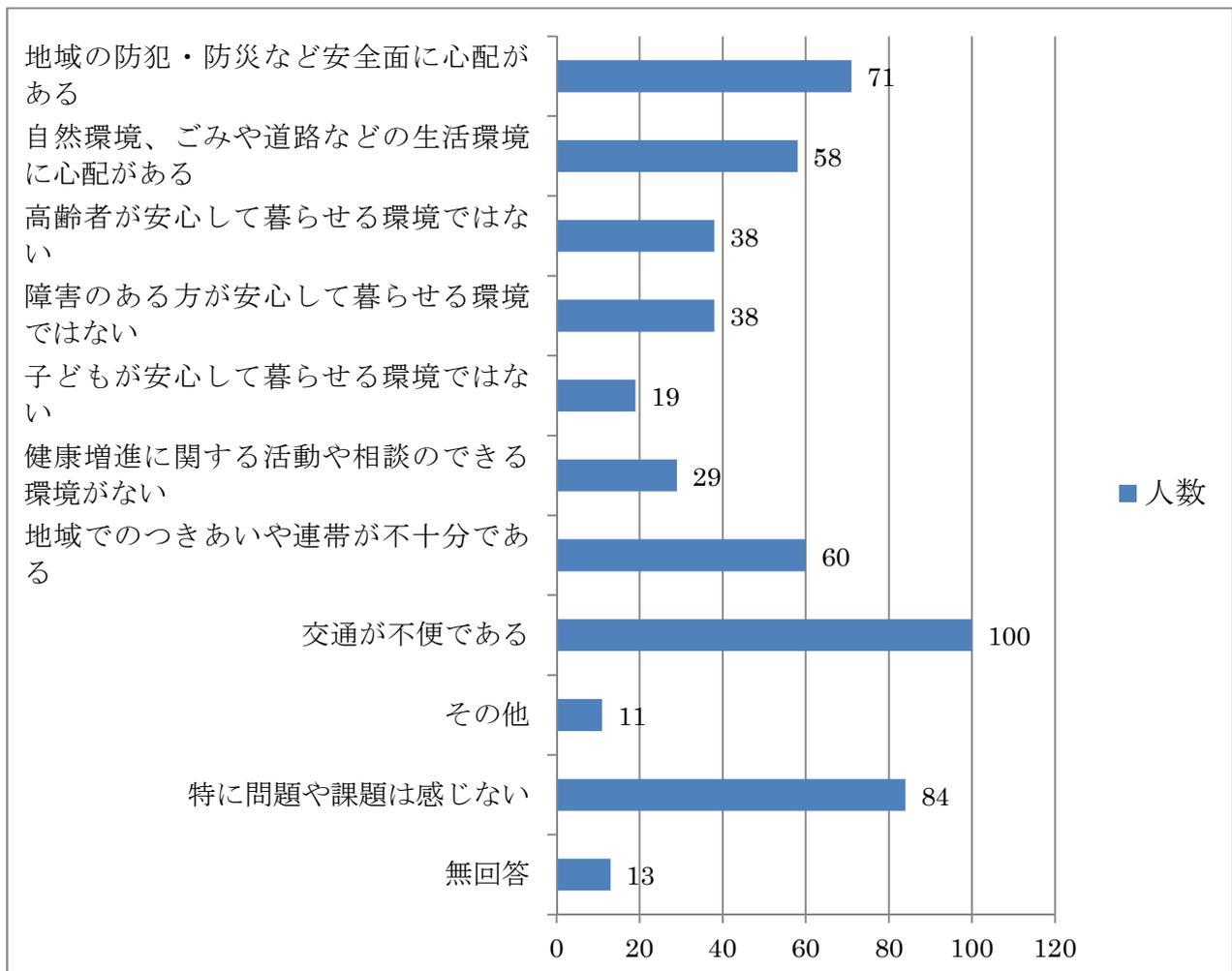
問4 あなたやあなたのご家族は、日々の生活の中でどのような悩みや不安を感じることがありますか。(あてはまるもの全てに○をつけて下さい。)



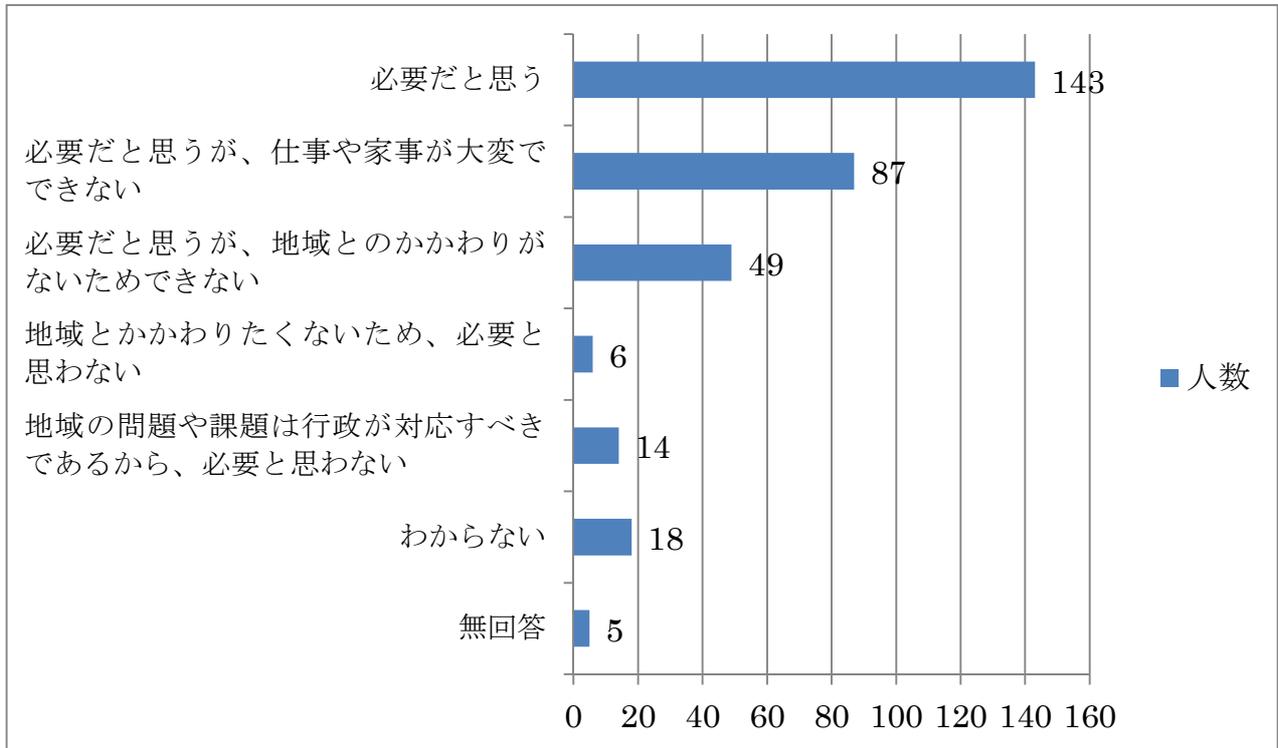
問5 あなたは普段どの程度、ご近所づきあいをしていますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください。)



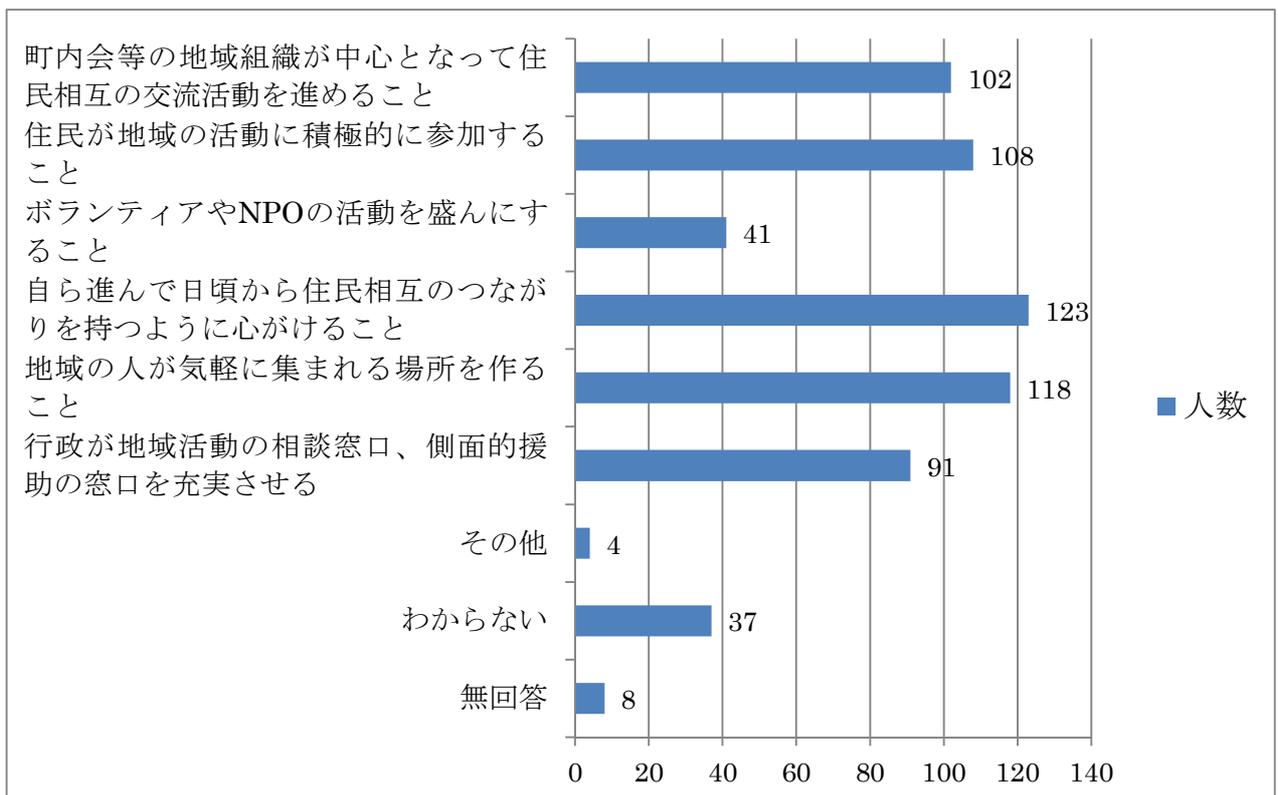
問6 あなたの住んでいる地域に問題や課題があるとすればどんなことですか。(あてはまるもの全てに○をつけて下さい。)



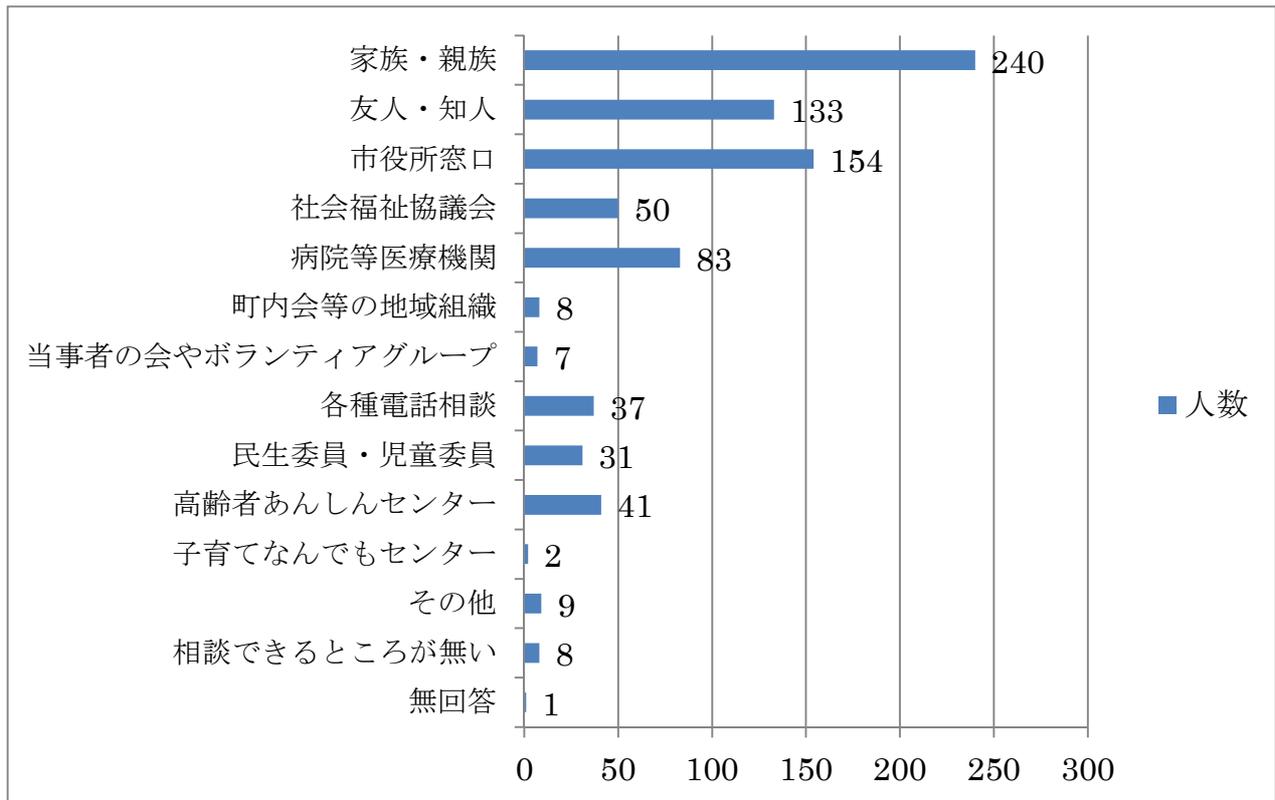
問7 あなたは、地域における問題や課題解決に向けた住民同士の自主的なささえあい、たすけあいの関係が必要だと思いますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください。)



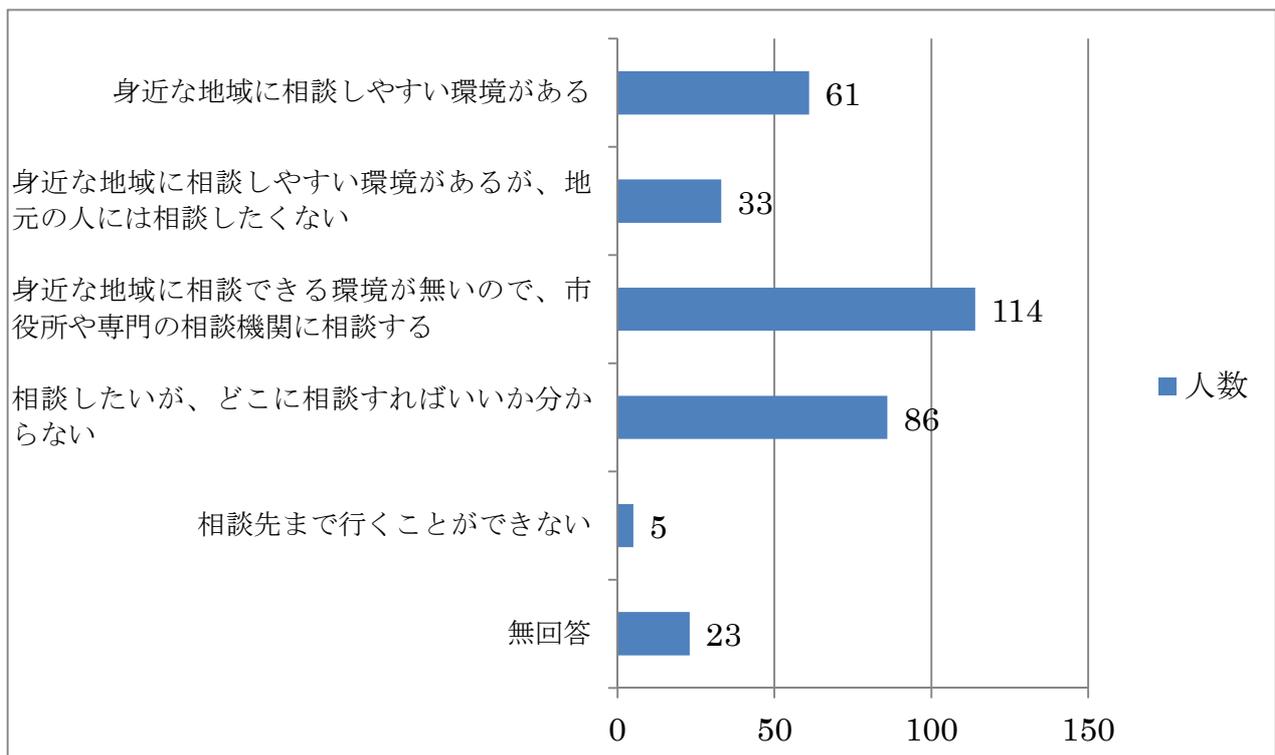
問8 あなたは、地域における自主的なささえあい・たすけあいのためには、どんなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○をつけてください。)



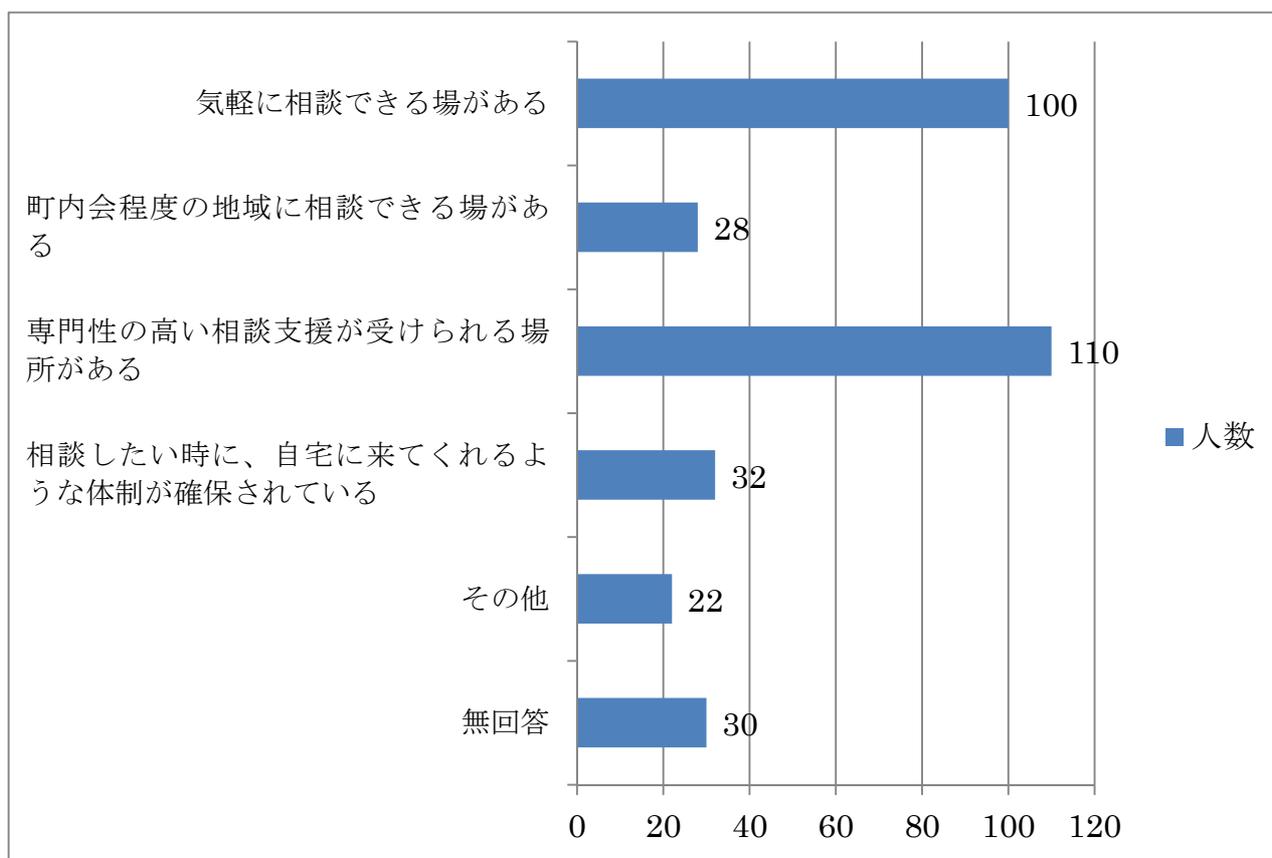
問9 あなたは、福祉に関する困りごとがあった場合、主にどこに相談しますか。(あてはまるもの全てに○をつけてください。)



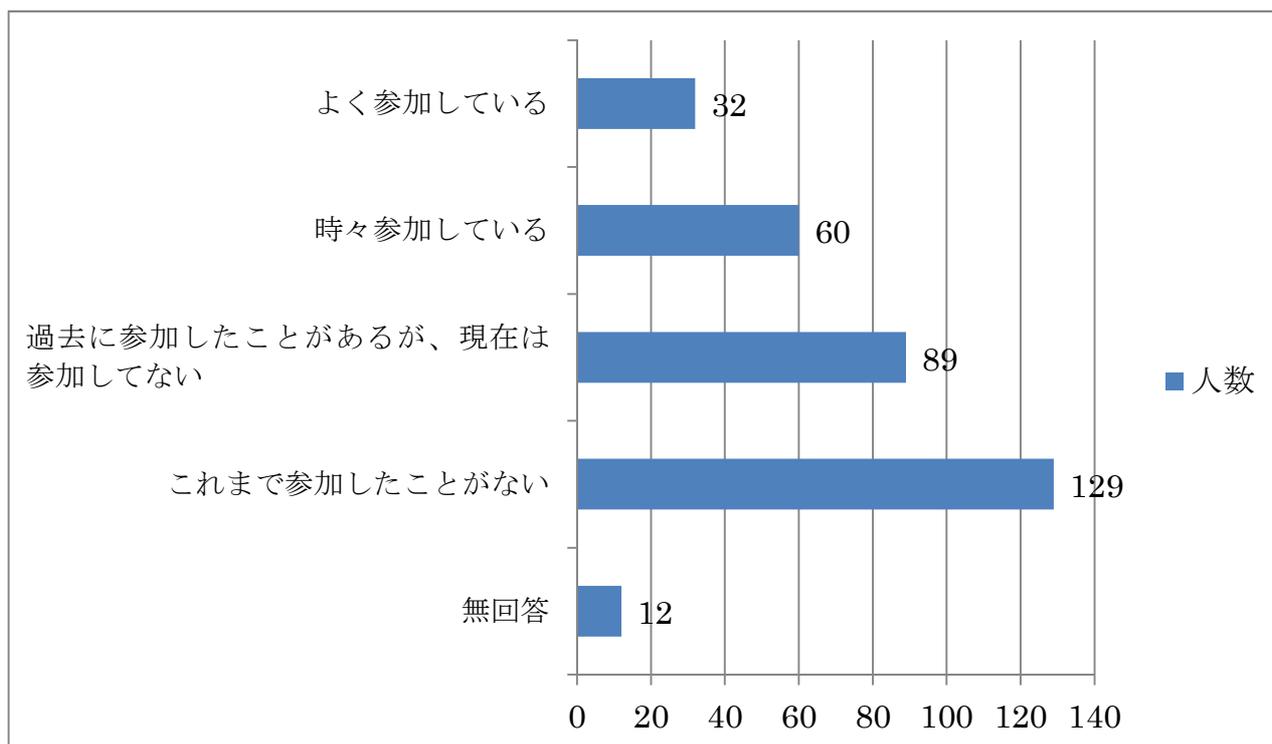
問10 現在、あなたの身近な地域は、高齢者や障害のある方、子どものことなど福祉に関する困りごとの相談をしやすい状況だと思いますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください。)



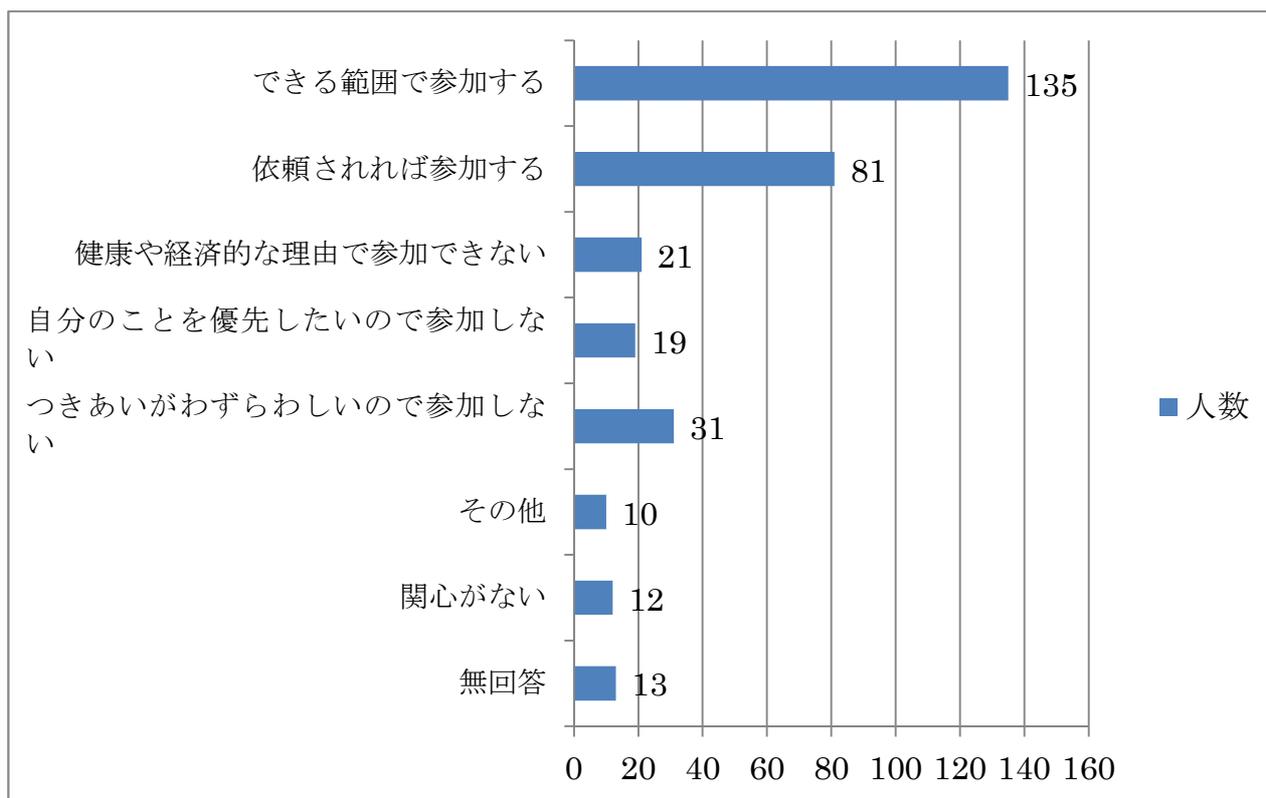
問 1 1 あなたにとって、身近で相談しやすい環境とはどのような環境ですか。(あてはまるもの1つに○をつけてください。)



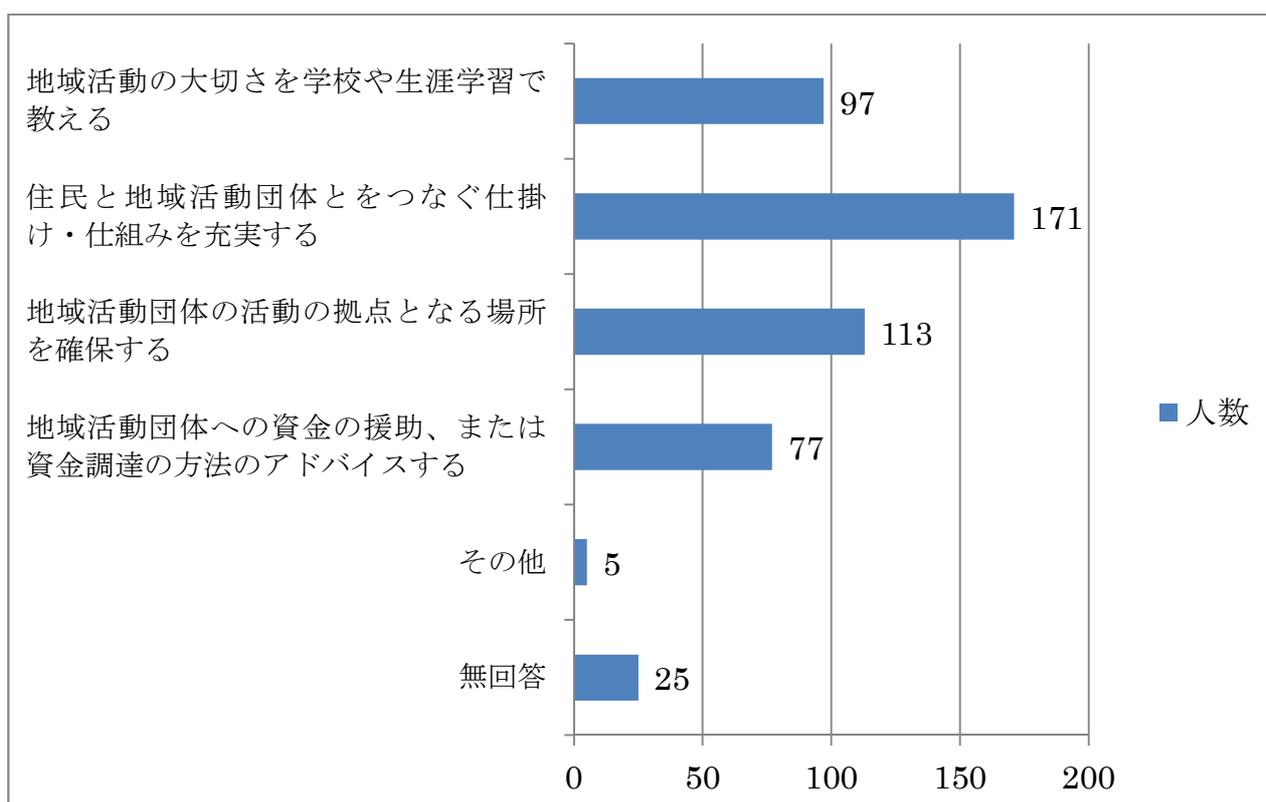
問 1 2 現在、あなたは地域活動に参加していますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください。)



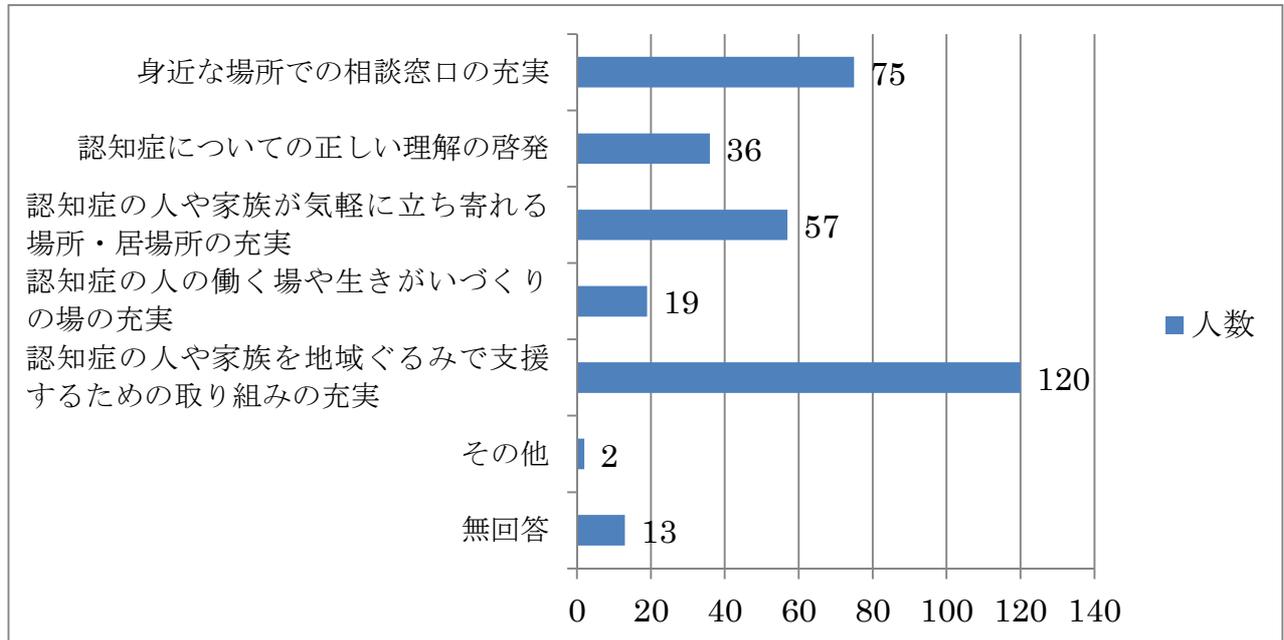
問 1 3 地域活動への参加について、あなたのお考えや状況に最も近いものは何ですか。
 (あてはまるもの1つに○をつけてください。)



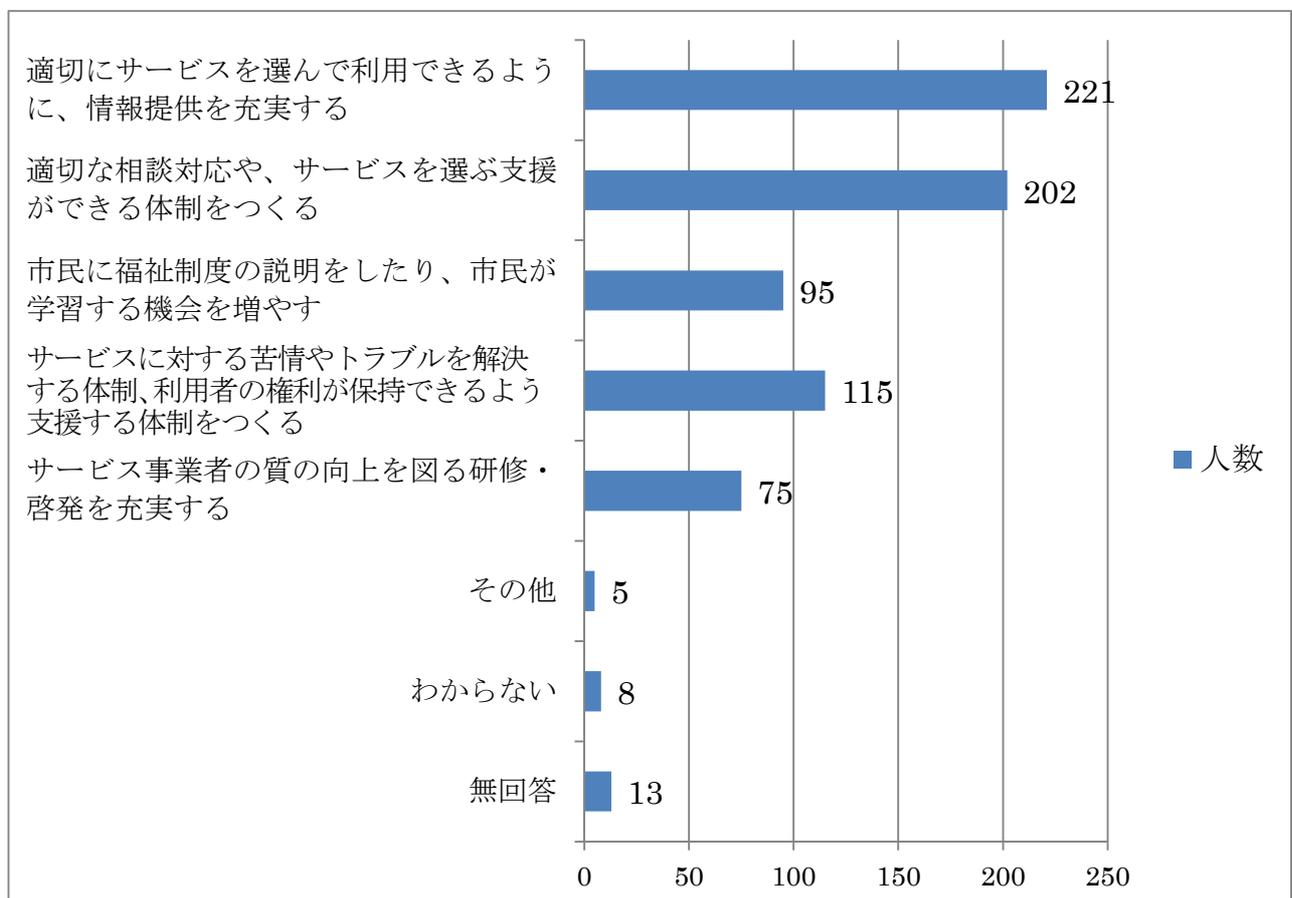
問 1 4 住民が地域活動に参加するために、市が取り組む必要があると思うことはなんですか。(あてはまるもの2つまでに○をつけてください。)



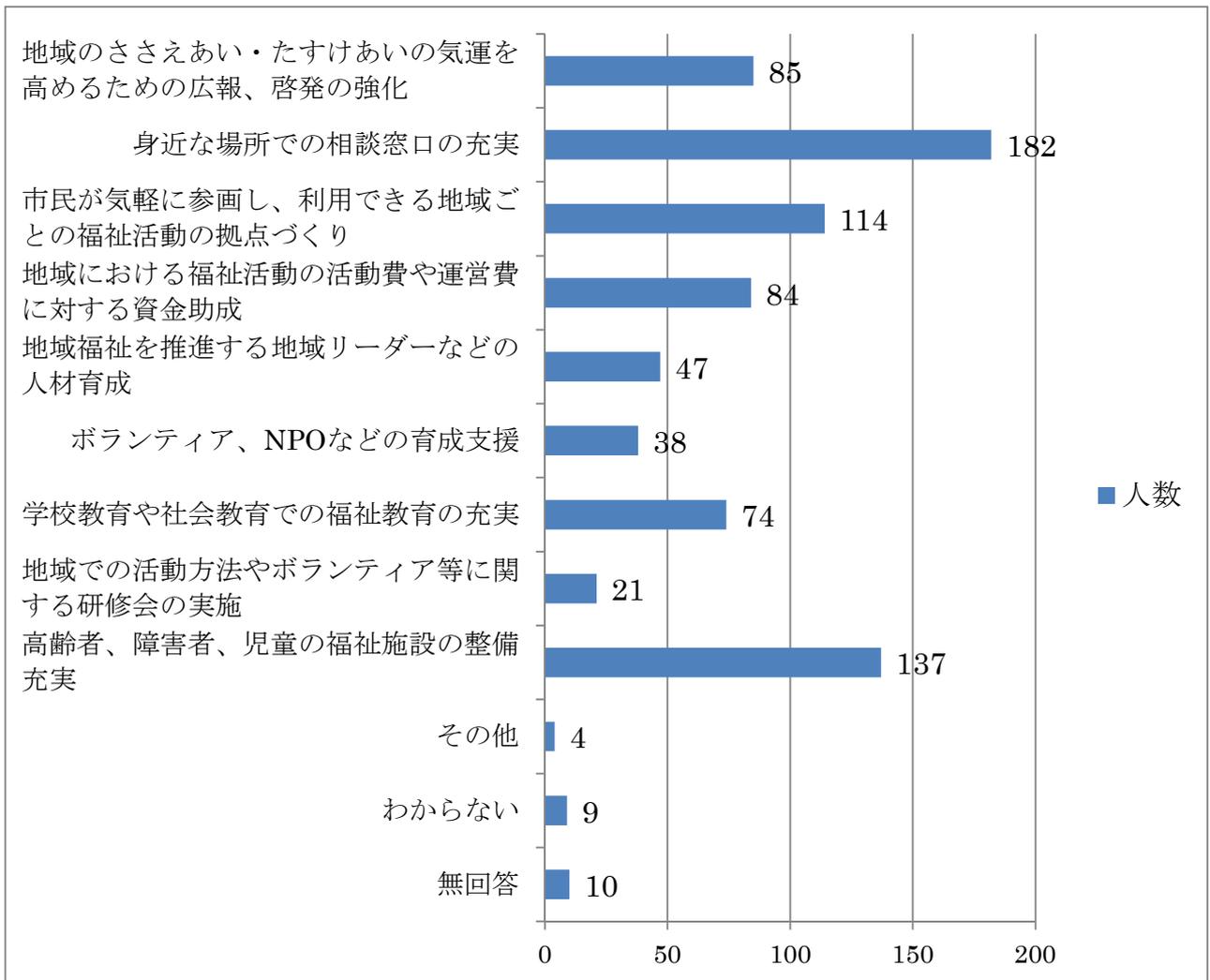
問 1 5 将来、家族やあなた自身が認知症になった時、安心して暮らしていけるために必要だと思うことは何だと思えますか。(あてはまるもの1つに○をつけてください。)



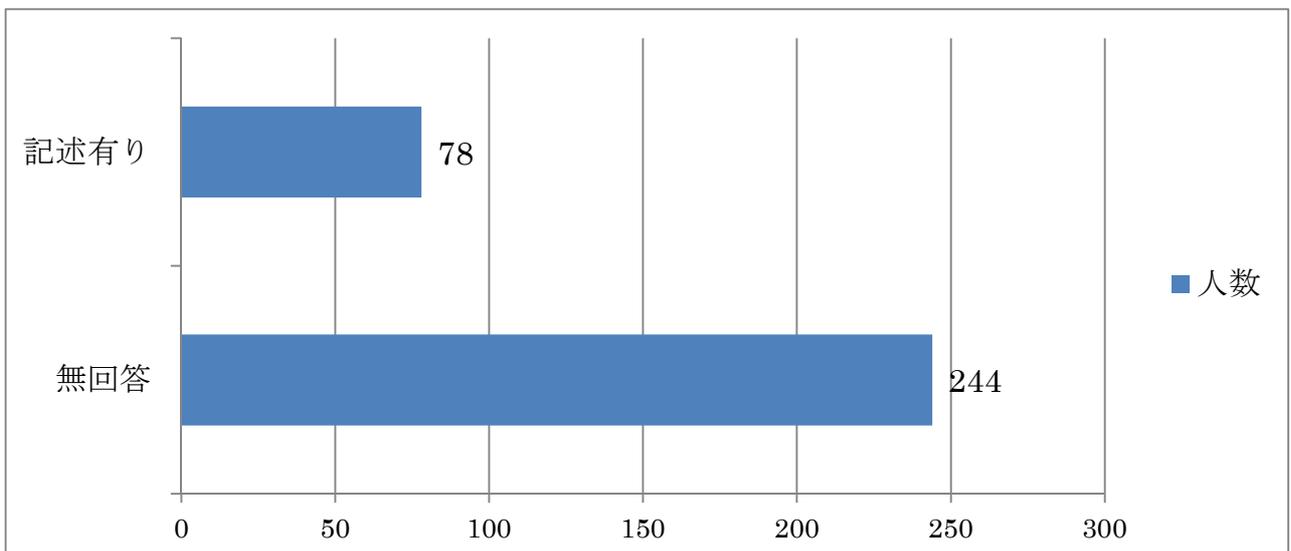
問 1 6 必要な福祉サービスを安心して利用できるようにするため、市はどのようなことを充実すべきだと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○をつけてください。)



問17 今後地域福祉を推進するために優先して取り組むべきことは何だと思えますか。
 (あてはまるもの3つまでに○をつけてください。)



問18 「誰もが住み慣れた地域で、その人らしく安心して暮らせる社会」を創り出すための取り組みについて、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。



【主な回答】

(相談支援関連)

- 一人暮らしの住民はなかなか地域での交流は少ないと思われる。気軽に相談できる窓口かコミュニティなどがあれば地域全体での活性化にもつながると思います。
- 高齢者宅に定期的に信頼できる人たちが訪問して困り事を聞いたり、健康などを確認して欲しい。
- インターネット等で相談できる場を設ける。
- 古くからの住民の方は相談する事が恥ずかしいと思っている方が多いので民生委員の方の声かけが大切である。しかし隣の方々も意識して気をつかうことも必要と思われる。日頃から地域の付き合いが大切と考える。地域で相談できる場所の開設（公民館で2週間に1回とかお茶会など）。
- 資格を持った福祉士を多数配置する。
- それぞれの悩みを気軽に相談できる場所を設けて欲しい。
- 2ヶ月に1回くらいの定例会を設け、住民との交流を図る。市役所の職員が地域の公民館などへ出向き、専門家を連れて座談会を開く。
- 相談したくてもする場所や人が分からないので、あるなら分かりやすく知らせて欲しい。回覧板などに毎回はさんでおくなど。
- 子育て老後、病気、障害などにそれぞれ悩みや不安を感じる人、家族が種類別に経験者や専門の知識を持った人達と意見交換したり、アドバイスができる環境機会を作ってあげることが必要。
- 相談したいけど誰に相談したらよいか分からない。

(サービス提供関連)

- 高齢者が安心して自宅で過ごせるサービスをお願いしたい。強く希望。
- 高齢者一人暮らしをしている方への支援をどのように行っていくのが良いか、役所及び地域が一体となって取り組むこと。
- 福祉施設の人材の質の向上を常々感じている。それには学校教育のあり方や福祉の仕事に魅力を高めていく必要があると思う。
- 困り事を抱える住民とサービス提供者をつなぐ人が必要。
- 高齢者や外出できない人へ、定期的に声かけ訪問を行い、生活向上のための各サービス機関へとつなぐ役目をする人が必要。
- 地域で様々な人たちと交流の場を設ける。電話一本で駆けつけて相談にのってもらえるようなサービスの充実化。(その場に行かなくても家にいて情報の提供や指導をしてもらえるような)

(生活課題への対応関連)

- 一定の年齢で動けなくなった時、介護と医療の連携で、家で最後まで過ごせるような体制を作って欲しい。
- 災害に備え、避難訓練や防災知識を学べるような機会（イベント）の実施。近所にどんなことで困っている人がいるか知り、避難の際に助け合える仕組み作りが必要。
- 一人暮らしになったとき身の回りの事、食事、毎日の生活が不安で今から心配。安心して暮らせる社会にするにはいつでもすぐに対応していただける仕組みが欲しいと思う。
- 地域単位にすると、年齢構成も違い、支えあいがしにくい地域もあると考えられるので、行政の支援が必要と思います。

- 1対1で介護をする家庭。女性単身で高齢者、介護を背負っている家庭、生活保護を受給するほどではないがギリギリでがまんを強いられている家庭。核家族、家庭を築かない独身の人などが親を支えることになった時に、優遇措置、控除などが必要。施設入所できない人でも暮らせる賃貸住宅を作ること。
- 困り事を抱えていても発信できない状況の人のために、上手に介入してくれる人が必要。まだまだ潜在化されていると思います。
- いろいろな状態でその日その日を過ごしている方がいると思います。その方を高崎市は把握しなければなりません。国勢調査のように一人一人の状態を聞き、助けを求めているか知る事が必要だと思います。
- 町内などで困っている人達（買い物、ごみ出し）の手伝いができるようにできればよい。

（地域の居場所関連）

- 地域で子育てや介護を中心に住民が集まれるような場所が必要。
- 才能技術を持ったお年寄りが地域の子どもたちとふれあう場所、ペットと一緒に語り合える場所、技術の交換をしてお互いに学ぶ場所、独居の人たちと地域の人々とふれあう場所、開けた環境の整備の充実、町づくりをして欲しい。
- 住み慣れた地域で気軽に集まれる場所をつくること。同時にその場所を運営するための資金を提供し、その宣伝運営は地域に任せることが必要だと思います。
- 地域の住民（こどもから大人、障害者まで）が協力して行い楽しむ事ができる特色のあるイベント・行事が必要。

（地域活動・ボランティア関連）

- 住民各々の意識の改善（横のつながり）が必要。
- 自分の空いた時間でちょっとでも地域の人たちのお手伝いができるような仕組み、研修会などを実施していただけると良いと思います。
- 市と地域が中心となりボランティアを行う人材を増やしていくことが必要だと思います。
- 地域住民一人一人の認識を高めて、自分の事と考えていく福祉活動が必要だと感じます。
- 福祉活動を活性化する取り組みが大事。
- 地域での社会活動をやりたくても日々の仕事が忙しすぎて参加できません。行政から企業へ働き方を変えるように呼びかけをして欲しいです。
- 法律等が良く分からないのでどこまで支援できるのか分からないのが現状。（人権だの自由だの）
- 障害者の方々と関わりを持ちたくても地域での情報がないため、支援ができないのが残念です。
- 生活の困り事や住民ボランティア等に対して行政が個別に協力できるか訪問して確認等を実施してアクションを起こす事が必要。
- ボランティアの仕組みづくりはもちろんですが、善意や行為だけでは立ち行かない部分もあります。資金援助も重要な要素です。
- 幅広い世代の人がボランティアや地域活動に参加協力できるような工夫が必要だと思います。
- フェイスブックやSNSで誰でも気軽に参加できるように情報発信して欲しい。多少の賃金（手当て）も必要と思う。
- 昔と違い共働きが増えているため、昔と同じような地域活動は困難。相談の場を設け、インターネットやラインで配信するや運動する、集まれる施設をつくって地域メンバーが集まれるようにするなど、他の地域の新しい施設を勉強した上でいいものを採用して欲しい。